

JANNETこれまでの研修会・研究会一覧

2016.6.2 現在

研修会

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
2001年	1月28日(日)	日本理学療法士会館	CBRキャパシティ ビルディング セミナー ー地域参加型リハビリテーションの理解と実践ー	35名	渡邊 雅行	日本CBRネットワーク	研究会では時間が限られているので、一日かけてのセミナー・ワークショップでは、CBRについてじっくり話し合うことができた。
2002年	1月20日(日)	戸山サンライズ	貧困と参加:「力の剥奪(deprivation)」から「非排除型(inclusive)」開発へ	26名	穂坂 光彦	日本福祉大学 経営学部 経営開発学科	開発を学問的に学びたいというニーズには応えられた企画だったと言えるのでは。
2003年	8月27日(金)	早稲田大学 国際会議場	CBR(地域に根ざしたリハビリテーション)ー現在の傾向および将来への試みに関する議論	50名	マヤ・トーマス		
2005年	3月6日(日)	戸山サンライズ	精神障害と国際協力	40名	蟻塚 亮二	精神科医	
2005年	6月26日(日)	戸山サンライズ	ネパールの農村に暮らして	50名	垣見 一雅	OKバジ	
2008年	3月1日(土)-5日(水)	バングラデシュ	「開発における障害」現地研修会	12名	ノーマン・カーン等	CDD(開発における障害センター)	2007年度
2009年	3月10日(火)11日(水)	福島県泉崎村	地域おこしと障害者支援	7名	熊田 芳江	こころん	WHOチャパル・カスナビス氏、インドネシアCBR 開発研修センターマラトモ氏同行
2010年	1月16日(土)-23日(土)	インド	バンガロールにおけるCBR	5名	ラマ・チャンドル	Mobility India, BasicNeeds	マヤ・トーマス氏に当初企画への助言をいただいた。

研究会

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
1994年	6月20日(月)	早稲田奉仕園 セミナーハウス	カンボジアの現状と協力活動 ①カンボジア農村の現状と課題ー農業開発ワーカーに聞く ②カンボジアにおける車いす関連の活動について ③カンボジアの義肢に関するNGOの動き		サリン・キム	アジア保健研修所	第1日目は国別報告でカンボジアをとりあげた。豊かな会員の経験を共有した。
					ホン・アン		
					小松 博史		
1995年	1月17日(火)	戸山サンライズ	インドネシアでの活動①「インドネシアCBR研修事業」 ②ソロにおけるCBR創業者ワークショップへの協力 ③日本理学療法士協会の活動 ④ソロ・リハビリテーションセンターへの協力を中心に		澤村 誠志	国際義肢装具連盟(ISPO)	国別報告2日目は会員団体の経験の多いインドネシアをとりあげた。会員の経験の共有。
					星野 侃司	こども未来財団	
					津山 直一	日本障害者リハビリテーション協会	
					久野 研二	日本理学療法士協会	
1995年	6月8日(木)	早稲田奉仕園 セミナーハウス	CBRについて:①CBR研究ー歴史と今日的課題、 ②CBRー概念と実践	35名	松井 亮輔	日本障害者雇用促進協会	CBRの概念をきちんと学ぶことを目的にしたテーマ。
					小林 明子	国際CBR研究会	
1995年	12月5日(火)	戸山サンライズ	職業分野におけるCBRーインドネシアの体験から フィリピン・ネグロス島におけるCBR	31名	中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテート	CBRの事例から学ぶ。
					丹羽 勇	元ILO	
1996年	5月27日(月)	戸山サンライズ	NPO法案の概要・今後の動き 民間団体にとってのNPO法案の役割	24名	松原 明	市民活動を支える制度をつくる会	タイムリーな話題であったNPO法案をとりあげた。
					中西 正司	ヒューマンケア協会	
1996年	12月16日(月)	戸山サンライズ	「障害分野における研修活動の『評価』を考える」 加盟団体よりの事例報告 ①アジア・ディスアビリティ・インスティテート ②日本キリスト教奉仕団 アガペ身体障害者作業センター ③日本理学療法士協会 ④日本精神薄弱者福祉連盟	34名	池住 義憲	アジア保健研修所	研修を実施している会員が多く、共通の課題をかかえていることから、「研修の評価」をとりあげた。
					中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテート	
					飯島 蘭子	日本キリスト教奉仕団 アガペ身体障害者作業センター	
					小林 義文	日本理学療法士協会	
					沼田 千好子	日本精神薄弱者福祉連盟 (現日本知的障害福祉連盟)	

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
1997年	6月3日(日)	戸山サンライズ	「障害分野における研修活動の『評価』を考えるPART II」-ラオスでの住民参加型農村開発における『評価』の試み	22名	磯田 厚子	日本国際ボランティアセンター JVC	「研修の評価」が好評だったことから、「評価」の第2弾。
	12月11日(木)	戸山サンライズ	報告: JICAの国民参加型協力推進調査「障害者の国際協力の参加」についての報告-概要とその後の動きについて	19名	岩波 和俊	JICA東京国際研修センター	JICAの動きをとらえ、国際協力のあり方をテーマとした。
			報告: 全日本ろうあ連盟の実施する国際協力事業について		大槻 芳子	全日本ろうあ連盟	
			報告: 日本点字図書館の実施する国際協力事業について		田中 徹二	日本点字図書館	
報告と総括: 国立リハにおける国際協力事業の実施について	植村 英晴	国立リハセンター国際協力室(現: 日本社会事業大学社会事業研究所)					
1998年	6月15日(月)	戸山サンライズ	「国際障害分類(ICIDH)東京改正会議」について	25名	佐藤 久夫	日本社会事業大学	タイムリーな話題であるICIDHをとりあげた。
	11月17日(火)	戸山サンライズ	(5周年記念セミナー)「21世紀におけるCBRと国際協力」		デビット・ワーナー		
1999年	6月7日(月)	戸山サンライズ	今後の障害分野における協力事業の展開-助成のあり方をめぐって		松井 亮輔	JANNET会長(北星学園大学)	協力のあり方。
2000年	1月17日(月)	戸山サンライズ	報告: よりよいNPO活動をめざして		松井 亮輔	JANNET会長(北星学園大学)	再度NPO法についてとりあげた。JANNETがNPO法人格をとるかどうかも考えることを目的とした。
			講演: NPO法設立後のNPO活動		松原 明	市民活動を支える制度をつくる会	
報告: JICAのNGO支援に関する2つの新しい援助計画(開発福祉支援事業: 開発パートナー事業)について			山内 康弘		JICA国内事業部国内連携課		
	6月5日(月)	戸山サンライズ	IT革命は社会をどう変えるか。-国際協力活動への影響-		河村 宏	日本障害者リハビリテーション協会情報センター長	ホットな話題として、ICTをとりあげた。
2001年	1月9日(火)	戸山サンライズ	開発と評価	15名	源 由理子	アユス仏教国際協力ネットワーク	CBRへの理解から開発への理解へと進展。
	6月25日(月)	戸山サンライズ	ICIDH改訂について	149名	上田 敏	WHO国際障害分類日本協力センター 日本障害者リハビリテーション協会	タイムリーな話題で、参加者数過去最高。
2002年	5月14日	戸山サンライズ	東チモールの障害者の現状を聞く会	20名	長田 こずえ	国連ESCWA(西アジア経済社会委員会)	
	6月2日(日)	戸山サンライズ	CBR(地域に根ざしたリハビリテーション)における主体的参加型村落評価法(PRA)の実践	21名	大澤 諭樹彦	秋田大学 医療技術短期大学部 理学療法科	再びCBRへ立ちかえり、PRAをとりあげた。
2003年	2月15(土)16日(日)	戸山サンライズ	ワークショップ「CBRの国際的動向」	56名	マルコム・ピート、 ローナ・ジーン・エドモンド	カナダ クイーンズ大学 教授	
	3月8日(土)	JICA東京国際研修センター(TIC)	JANNET幹部合宿: 設立からこれまでの発展を振り返り、課題を認識し、今後どう発展させるかを話合った。	11名	池住義憲、山崎真由美		
	6月8日(日)	中野サンプラザ	「戦争と障害」-会員団体によるアフガニスタン、カンボジアにおける地雷除去や地雷撲滅キャンペーンについての報告-	30名	紺野 誠二	難民を助ける会	
					加藤 美千代	JCBL	
10月25日(土)	戸山サンライズ	プロヒモCBR見学報告		田口 順子	日本理学療法士協会		
2004年	1月18日(日)	中野サンプラザ	世界の活動報告	40名	高松 美穂		コソボからの報告
					吉田 美穂		フィリピンからの報告
					沼田 千好子		エジプトからの報告
					上野 悦子		高山市のバリアフリー観光の取り組み
	6月6日(日)	戸山サンライズ	国際障害NGOの目指すこと ~障害者の権利条約制定に向けて~	34名	中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテート(DPI)	
小椋 武男					全日本ろうあ連盟(世界ろう連盟)		
松友 了					全日本手をつなぐ育成会(国際育成会連盟)		
指田 忠司					日本盲人会連合(世界盲人連合)		
				松井 亮輔	日本障害者リハビリテーション協会 (国際リハビリテーション協会)		
	戸山サンライズ	ネパールにおける障害者のエンパワメントの現状と課題	15名	渡邊 雅行		ネパールから来日した渡邊さんの関係者の話	

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
2005年	1月22日(日)	JICA東京	アフリカのコミュニティと障害	50名	鍋屋 史朗	JICA 東京国際センター 業務グループ長	アフリカへの国際協力の現状
					星野 明彦	JICA 無償資金協力部	村落開発普及員としての体験報告inアフリカ
					河野 真	国際医療福祉大学	作業療法士としての体験報告 in マラウイ
	11月5日(土)	早稲田奉仕園	開発への障害のインクルージョン	56名	長田 こずえ	国連ESCAP障害担当官	障害と貧困-CBRのダイナミクス
					ナズムル・バリ	CDD(開発における障害センター)副 所長	開発への障害のインクルージョン
					ベンジャミン・ゴバン	ハンディキャップ・インターナショナル(フィリピン) プ ログラムディレクター	質疑応答 指定発言
2006年	1月21日(土)	戸山サンライズ	CBRの課題への取り組み	39名	高松 美穂	郡山健康科学専門学校理学療法学科	カナダにおけるCBR人材育成コースの紹介-カナダ、クィーンズ大学の短期コースに参加して
					大澤 諭樹彦	秋田大学医学部保健学科	CBRの持続性を考える-インドネシア、ソロにおける事例の紹介
	8月26日(土)	戸山サンライズ	アジアの視覚障害者との交流	29名	田中 徹二	日本点字図書館	
	9月3日(日)	日赤会館1F 中会議室	開発と開発への障害のインクルージョン活動 -南アジアを事例に		下澤 嶽	国際協力NGOセンター事務局長	BangladeshのNGO全般について、CDD(Center for Disability in Development)の活動について紹介した
上野 悦子	日本障害者リハビリテーション協会						
	7月19日(火)	戸山サンライズ	ウガンダ国内および世界の地雷問題の現状	13名	マーガレット・アラック・オレ ク	ULSA(ウガンダ地雷生存者協会代 表)	
2007年	10月 9日(火)	戸山サンライズ	開発における障害- Bangladeshを深める	29名	アビディン・カーン	CDD(開発における障害センター) マネージメント担当	Bangladeshでのインクルーシブ開発についてさらに理解を深め、またCDDとパートナーの開発組織の具体的な活動について紹介
	11月19日(月)	戸山サンライズ	障害の開発へのメインストリーミングをテーマとする意 見交換会	34名	長田 こずえ	国連開発政策課シニア経済担当官	ニューヨーク国連本部にて活躍中の長田こずえさんをリソースパースンとしてお招きし障害と開発に関心のある方との意見交換会を開催
2008年	6月16日(月)	戸山サンライズ	第1回「CBRと開発」の勉強会	16名	田口 順子 山崎 真由美	日本理学療法士協会、翻訳監修 アジア保健研修財団	『CBR』(著:マルコム・ピート)勉強会 田口氏:全体的なねらい、山崎氏:11章「政策、戦略、サービス事業」
	8月 4日(月)	早稲田奉仕園	第2回「CBRと開発」の勉強会	15名	田口 順子	日本理学療法士協会、翻訳本監修	『CBR』 第1章から第4章
	9月23日(火)	戸山サンライズ	第3回「CBRと開発」の勉強会	20名	古西 勇	新潟医療福祉大学理学療法学科准教 授、JANNET広報・啓発委員	『CBR』 第8章: CBRにおける教育
	12月22日(月)	戸山サンライズ	第4回「CBRと開発」の勉強会	21名	河野 真	国際医療福祉大学保健医療学部 日本作業療法士協会国際部	『CBR』 第10章: CBRにおける研究
2009年	2月 2日(月)	戸山サンライズ	第5回「CBRと開発」の勉強会	17名	沼田 千好子	日本発達障害福祉連盟事務局長	『CBR』 第7章: CBRの評価
	7月11日(土)	戸山サンライズ	第1回「CBRと開発」の勉強会	38名	白幡 利雄	シャプラニール=市民による海外協 力の会	「 Bangladeshにおける開発の経験から障害を考える」
	10月11日(日)	戸山サンライズ	第2回「CBRと開発」の勉強会	41名	河野 真	国際医療福祉大学保健医療学部 日本作業療法士協会国際部	「ウズベキスタンでの事例からCBRの課題を学ぶ」
2010年	8月27日(金)	中野サンプラザ	「開発途上国の被災者のために私たちができること -災害による障害者に対するCBRを通じた支援-」	82名	阪本 真由美	人と防災未来センター研究員	開発途上国における災害障害者の生活再建支援を考える
					ナワン・タカリニ	理学療法士、インドネシア	インドネシアの地震における障害者救援の最前線から
					野際 紗綾子	(難民を助ける会 シニア・プログラム・ コーディネーター)	ミャンマー(ビルマ)におけるサイクロン災害とCBR活動の現場から
2011年	8月1日(月)	戸山サンライズ	CBIDおよびCBRガイドラインの概要	20名	上野 悦子	日本障害者リハビリテーション協会	「CBID、CBRガイドラインの概要」
	10月29日(土)	戸山サンライズ	日本の地域福祉とCBID/CBR ~街ぐるみの包括的福祉に向けて~	24名	戸枝 陽基	NPOふわり・社会福祉法人むそう理事 長	「むそう・ふわりの活動紹介」
					石本 馨	日本福祉大学健康科学部、日本作業 療法士協会	地域福祉とCBR/CBIDとの関わりに関する解説
					清水 香子	アジア保健研修所	同上

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
2012年	2月29日(水)	戸山サンライズ	スリランカのCBR -CBRマトリックスで見てみよう！-	36名	加藤 尚子	作業療法士	「スリランカでのCBR報告」
					尻無浜 博幸	松本大学観光ホスピタリティ学科准教授	「CBRと日本の地域福祉」に関する対話
					鈴木 直也	NPO起業支援ネット副代表	同上
	8月25日(金)	戸山サンライズ	第一回コミュニティにおけるインクルーシブ開発(CBID)検討会 『日本から世界へ～日本の地域実践例をCBRマトリックスで読み解きます～』	21名	上野 悦子	日本障害者リハビリテーション協会	趣旨説明とこれまでの流れ
					河野 眞	日本作業療法士協会	ガイドライン要点共有(2冊目から7冊目まで)
					今西 浩明	ワールド・ビジョン・ジャパン	同上
	11月5日(月)		インドの障害と開発の活動 -ベンガル・レディさんの講演会と懇談- (講師の都合により中止)				
	12月8日(土)	戸山サンライズ	第二回コミュニティにおけるインクルーシブ開発(CBID*)検討会 「日本から世界へ～日本の地域実践例をCBRマトリックスで読み解きます～」	15名	上野 悦子	日本障害者リハビリテーション協会	概要説明と前研究会内容の振り返り
					河村 康二		
					河野 眞	日本作業療法士協会	CBRガイドラインから「保健」コンポーネントの要点発表
伊藤 智典					日本理学療法士協会		
今西 浩明					ワールド・ビジョン・ジャパン	CBRガイドラインから「教育」コンポーネントの要点発表	
尻無浜 博幸	松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科	CBR事例発表(長野県松本市)					
2013年	2月25日(月)	戸山サンライズ	CBRガイドライン検討会	10名			
	6月16日(日)	国立ハンセン病療養所多磨全生園中央集会所	「隔離」から「共生」へ ハンセン病療養所の「内」と「外」から社会を変える 【IDEA ジャパン・障害分野NGO連絡会(JANNET)・笹川記念保健協力財団 共催セミナー】	25名	鈴木 禎一	ハンセン病首都圏市民の会代表	
					森元 美代治	IDEAジャパン理事長	
					佐久間 建	都立武蔵台学園府中分教室ひだまり学級教諭	
					高久 洋子	ハート相談センター元職員	
村上 絢子	ライター、IDEAジャパン事務局長						
7月10日(水)	戸山サンライズ	「障害インクルーシブ開発、バングラデシュでの進展」～障害のある人の暮らしやコミュニティはどう変わったのか？～	24名	ナズムル・バリ	CDD(障害と開発センター)所長	障害インクルーシブ開発 -CDDの活動-	
10月27日(日)	JICA地球ひろば	ポストMDGsと障害で話題の障害インクルーシブな開発とは？	65名	アルピナ・シャンカー	モビリティ・インディア所長	インドの実践	
				渡辺 ゆりか	草の根ささえあいプロジェクト代表理事	日本の実践	
				鈴木 直也	NPO法人起業支援ネット	CBID概要説明	
				河野 眞	日本作業療法士協会	CBID概要説明	
2014年	11月4日(火)	戸山サンライズ	マヤ・トーマスさん講演会 - CBIDの実践、インパクトの指標への考察等 -	34名	マヤ・トーマス	「障害・CBR・インクルーシブ開発」ジャーナル編集長	CBRの実践、インパクトの評価への考察等
2015年	2月27日(金)	戸山サンライズ	ここまで来た、防災への障害のインクルージョン！ - 国連防災世界会議直前、新しい世界防災の枠組みと開発的視点での課題 -	34名	堀内 葵	JANIC政策提言グループ・JCC2015事務局長	国連防災世界会議およびポストSDGsへのCSOの取り組み
					可児 さえ	マルチーザ・インターナショナル日本代表	障害インクルーシブな防災:持続可能な地域開発の中での役割

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
2015年	9月1日(火)～3日(木)	京王プラザホテル	第3回アジア太平洋CBR会議にて コミュニティベースのインクルーシブ開発(CBID)を通し ての貧困削減と持続可能な開発目標(SDGs)	—	—	—	46の国と地域から551名参加。東京宣言採択。CBID事例集(アジア太平洋及び日本国内)、プログラムは全体会5、分科会13、サイドイベント3、展示、ポスターセッション。期間中の参加者からの聞き取りおよび、JANNETが参加者へのアンケート結果から会議は概ね成功したと言える。年度内研究会は、本CBR会議共催にかえることとした。